

令和元年度民生教育常任委員会行政視察報告書

1 視察日時 令和元年10月23日（水）～10月25日（金）

秋田県大館市 10月23日（水）午後2時30分～午後4時30分

秋田市 10月24日（木）午後1時30分～午後3時30分

大仙市 10月25日（金）午前9時30分～午前11時30分

2 視察項目及び目的

【大館市】「ふるさとキャリア教育」について

大館市独自の教育理念「大館ふるさとキャリア教育」の独自性、様々な取組、地域とどのような関係を作り上げて、実践しているのかを視察研修することにより、本市の施策の参考とする。

【秋田市】「エイジフレンドリーシティ」について

平成23年に、日本国内の自治体として初めて、WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワークに参加し「エイジフレンドリーシティ行動計画」を策定して取り組んでいる。「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）」については、本市にとっても必要で身近な取組であるため、その工夫、今後の課題について視察研修することにより、本市の高齢者施策の参考とする。

【大仙市】「小中学校における学力向上への取り組み」について

「平成30年度全国学力・学習状況調査」において秋田県内でも優秀な成績を収めていることから、加須市内小中学校の学力の向上を議会として後押しするために、取組やサポート方法、継続のための工夫等を視察研修することにより、本市の教育に取り入れ学力向上を目指す。

3 参加者 民生教育常任委員会（8名）

委員長 齋藤 理史

副委員長 森本 寿子

委員 吉田 健一

委員 野中 芳子

委員 小林 利一

委員 柿沼 秀雄

委員 池田 年美

委員 原田 悟

随員 議会事務局議事課主査 橋本 智子

4 行政視察内容

【大館市】「ふるさとキャリア教育」について

①市の概要 市の木：秋田杉 市の花：キク

人口：71,882人/8月1日現在 面積：913.22km²

秋田県の北部に位置し、市の北境で、青森県と接している。市域の大部分は山間部であり、米代川とその支流の流域に沿って集落が点在する。大館城址及び市役所、裁判所、検察庁などが建ち並ぶ旧市街地は、長木川と米代川に挟まれた大館盆地の中心にある。しかし、県庁所在地秋田市及び県南部への交通の便は悪く、娯楽や観光・商業・医療の面では、秋田県内の各都市とのつながりよりも奥羽本線・東北自動車道がつながっていて近い弘前市や中南津軽地域とのつながりが強い。

②視察先対応者及び説明者

大館市議会事務局 局長 阿部 稔氏

主査 佐藤 淳氏

教育委員会 教育監 山本 多鶴子氏

③視察報告

◎大館ふるさとキャリア教育の概要について

ふるさとに生きる基盤を培う「ふるさと教育」とその基盤の上に自らの人生の指針を描く「キャリア教育」を融合した大館市独自の教育理念で、ふるさとに根ざし、大館の未来を切り開く人材を育成することを目的としている。

教育長が、主に若者人口の流出による、消滅可能都市という危機感から、「教育による未来大館の創生」を行うとして、平成23年度から大館市独自の「大館ふるさとキャリア教育」が始められた。

そして、未来大館市民を育成する「おおだて型学力」構想図が作成され、その実践として、「学びの交響学」、「百花繚乱作戦」、「学社融合」、「未来人材プロジェクト」により、目標達成を目指している。

平成23年度から9年間が経過して、若者の流出について、「平成22年度の高卒地元就職者が全就職者の50%から平成29年度は68%」となり、効果が見えてきている。親の意識も変化し、大館市に子どもを就職させようとする「親のふるさとへの愛着、親や企業が自信と誇りを回復」してきた。子どもたちは「仕事がない」から「仕事をつくる」、親は「大館でがんばってね」との声掛けも増えてきている。

◎今後の課題について

専門職が不足しているため、卒業後一定期間、大館市に勤務することで、返済することがない独自の奨学金制度を導入して確保に努めているが、さらに対応が必要と考えられる。「仕事」を作ることは、産業部の支援が必要なことから、今後、「ふるさとキャリア教育」は、教育施策から「市総合計画」へ発展させ、さらに大館市の復活につなげることを目標としている。

◎主な質疑

質 問	説明及び回答
参加している企業は、何社ですか。	本年度は、200社程度。毎年平均で180社程度です。

百花繚乱作戦は、始めて何年くらいですか。	平成23年度から始めて9年目です。
参加する子どもたちが定員を超えた場合、割り振りはどのようにしていますか。	各募集先の「募集票」を子どもハローワークで作成し、学校を通じて募集を開始します。応募者多数の場合は、子どもハローワークで選考します。
秋田県及び福井県は常に学力が高いのですが、「学力の向上」はどのように行っていますか。	教員が努力していますが、学校も少人数教室や校長先生が教室を回って指導し、教員は手を抜くことなく授業を行っています。また、教員も小学校から「学習状況調査」という数字で評価が示されることが、授業のやりがいにもなっているようです。個々の「学力向上」は、テスト結果から教員が分析して、「回復指導」を6カ月目毎に行い、これをサイクルとして2回/年指導することで、「落ちこぼれ」をつくらないようにしています。
「働き方改革」と言われていますが、教員の勤務実態はどうですか。	子どものことを思って超過勤務になっています。
家庭学習はどのように進めていますか。	大館市も核家族化していますので、祖父母がいるからというよりは、自分から行っているように思われます。
教育委員の係わりはどのようになっていますか。	教育委員は4名で構成されており、各学校の授業、行事に積極的に参加されています。学校応援団のような存在です。
市議会はどのような役割を果たしていますか。	学校事業に対して、検討していただき、予算化を後押ししていただいています。
「高校卒業後、市外、県外への就職や進学が6割を超え、せっかくの人材も大館市の未来につながりにくくなっているという現状がある」とのことですが、どの程度解消されていますか。	大館市の高校生は位置的な関係で、進学は弘前大学を選択する人が多いようですが、大学生がどのくらいの割合で、戻ってきているかは調査できていません。
職場体験から、実際に就職につながった事例はありますか。	大館特産の「曲げわっぱ」職人や歯科技工士になられた方がいるとのお話を伺っています。
子どもハローワークに参加している子どもの人数は。	対象者は、4,000人ですが、参加者の延べ人数は2,000人程度で、対象者の30%強の子どもが参加しています。参加数の多い子は、20回程度の色々な事業に参加しています。
不登校はありますか。	増えてきています。新たな原因として、スマホ依存がおきています。
事業実施(医師、薬剤師、起業)に対する行政サポートは。	大館市で勤務すれば返還しなくてもいい奨学金制度があり、起業に対しても支援体制があります。各課の横のつながりを密にし、情報の共有や支援について話し合っています。

◎所感

- ・各実践の中で特に、企業・地域が行う仕事やイベントの手伝い、ボランティアへの参加などの「働く体験」を紹介している「子どもハローワーク」に関心を持ちました。なんとなく先生にやらされたり、参加する企業も仕方なく「形」だけと思っていたのですが、企業からの依頼に対して、子どもたちが自分の関心のある活動について自分で考えて、自分で応募して活動する。その成果が、まさに「大人の本気と子どものやる気が地域を変える」、「ふるさと大館を自らが支えているという自覚と誇り」があふれていて、しっかりと郷土を愛せる子どもを育てていると感心しました。本市でも加須市らしい「子どもハローワーク」を考えてみたいという気持ちにさせられました。
- ・就学前教育から大学まで、大館盆地を学舎に市民一人ひとりを先生に、教育されている点は、すばらしいと思いました。また、落ちこぼれを作らない教育、テストでできなかったところを分析し、指導する回復授業があり学力もすばらしかったです。おおだて型学力(自立の気概と能力を備え、ふるさとの未来を切り拓く総合人間力)や子どもハローワークは本市においてもいかしていけると思いました。
- ・事業を実施することで、自己肯定感の強い子どもが育ち、そのことが、高い学力につながっています。また、自分のまちでの暮らしやすさを感じている子どもが事業実施前に比べると約3倍になっており、この事業をリードしてきた担当課や先生方の熱意に驚きました。本市においてもボランティア活動への情報提供や履歴記録等すぐに取り入れられることもあると感じました。小さい頃からふるさとへの愛着を醸成することは本市でも行われていますが、地域、企業が連携して時間をかけて取り組んでほしいと思いました。

【秋田市】「エイジフレンドリーシティ」について

①市の概要 市の木：けやき 市の花：さつき

人口：306,321人/8月1日現在 面積：906.07km²

秋田市は、秋田県の沿岸中部に位置し、中核市に指定されている。

東北日本海側最大の都市で、秋田県の県庁所在地であり、同県の政治、経済、交通の中心都市である。1997年秋田新幹線「こまち」開業。秋田空港は国土交通省から空港法第4条に基づく特定地方管理空港の指定を受けている。

土崎地区には秋田港があり、秋田火力発電所を代表として工業団地が広がる。また、八橋・寺内地区を中心として国内最大の油田である八橋油田が広がる。

②視察先対応者及び説明者

議会事務局 議事課長 関氏

主席主査 石井氏

福祉保健部長寿福祉課 小玉氏、岩淵氏

③視察報告

◎エイジフレンドリーシティの概要について

秋田市は「WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワーク」への登録第1

号(自治体)である。この活動は、行政だけでは登録が認められないため、市民の参加を募り、「エイジフレンドリーあきた市民の会」を立ち上げて、行政と市民の2体制で活動した。登録後は、エイジフレンドリーシティ推進のための主な事業として4項目を取り上げて計画し、事業は5年ごとに更新している。

◎エイジフレンドリーシティ推進のための主な事業について

具体的な取組1

高齢者コインバス事業（高齢者の外出促進と社会参加、生きがいづくりを支援する）

平成23年10月から開始した事業で、65歳以上の高齢者は、100円/1回で路線バスに乗車できる制度。

具体的な取組2

エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業（民間サイドから高齢者にやさしい地域社会づくりを促進するとともに、生涯現役社会の推進や超高齢社会をチャンスと捉えた新たなビジネス創出を目指す）

登録企業数は105事業者（令和元年10月24日現在）で、事業者が高齢者や障がい者にやさしい取組を3年計画で3つ以上設定し、継続して実施する。

具体的な取組3

エイジフレンドリーシティ普及啓発事業（市民の意識啓発、市民活動の促進を図る）

エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナーの開催、「秋田市エイジフレンドリーシティ通信」の発行、シニア映画祭の開催、Facebook、Twitterの開設。

具体的な取組4

高齢者コミュニティ活動創出・支援事業（市民主体の地域づくりを促進する）

東大I GOとの取組、studio-Lとの取組を継続して進め、ボランティア、世代間交流、生きがい就労など、地域における高齢者の様々なコミュニティ活動を創出・支援し、それらの活動によって地域課題の解決が図られる仕組みづくりと体制構築を図っている。

◎今後の課題について

秋田市役所の各部署の横断的な部署が必要になってきている。また、フレンドリーパートナーの拡大及び更なる強化が必要である。

◎主な質疑

質 問	説明及び回答
「暮らしに役立つサービス」の配布先はどこですか。	全戸配布はしていません。病院、公共施設に置いてあるほか、民生委員に配布をお願いしています。
高齢者コインバス事業に対する支援の仕方を教えてください。	運行のバス会社に140,000千円/年間の支援を行っています。
高齢者コミュニティ活動の「studio-L」の取組のうち「秋田で長く楽しく暮らす方法を見つける研究室」のメンバーは。	「studio-L」は、若者にとって有名な企業であったため、自然と人が集まってきました。高齢者から若者まで、活動を通じて、友達を作る活動ができています。

災害時要援護者と支援者の登録の割合とその間を取り次ぐ仕組みはありますか。	残念ながら、災害時要援護者とエイジフレンドリー活動とは、リンクしていません。
--------------------------------------	--

◎所感

- ・高齢者が長く楽しく暮らしていくための、様々な取組に対する支援、住み慣れた地域でいきいきと活躍するための仕組みづくり、「WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワーク」への参加、「エイジフレンドリーパートナー制度」通信の発行と全戸配布などたいへん参考になりました。
- ・WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワークでは、サイクルで計画を評価検証し着実に進めているところが素晴らしい。高齢者の健康と福祉の増進は本市でも取り組んでいるが、秋田市は縦と横の連携を取りながら、体系的に進めていると感じました。また、「秋田市暮らしに役立つサービス」という情報手段は本市でも必要であると考えます。

【大仙市】「小中学校における学力向上への取り組み」について

①市の概要 市の木：ケヤキ 市の花：コスモス

人口：80,918人/8月1日現在 面積：866.77km²

大仙市は、県中央部に広がる出羽山地から、国内有数の穀倉地帯である横手盆地北部の仙北平野、さらに奥羽山脈の真昼山地までの広範囲にわたって位置する。そのため、1つの市ではあるが、8つの地域ごとに多種様々な文化や自然を見せている。そのうち、大曲地域は市の中心部である。大仙市役所本庁が置かれ、国や県の各行政出先機関も大曲地域に集中して存在する。あわせて交通の要衝であり、地域の主要な道路と鉄道が集中する。毎年8月には、雄物川河川敷運動公園で全国花火競技大会が行われ、全国各地から数十万人の人々が訪れる。

②視察先対応者及び説明者

大仙市議会事務局 参事 富樫 康隆氏

大仙市教育委員会 教育長 吉川 正一氏

教育指導部次長兼教育指導課長 島田 智氏

教育指導部教育指導課参事兼教育研究所長 櫻田 武氏

③視察報告

◎学力向上における取り組み内容について

「共（ともに）創（つくる）考（かんがえる）開（ひらく）」をキーワードに進めています。

1、共に支え合う力の育成

地域の教育力を生かし、豊かなかかわりの活動を推進し、心豊かで郷土愛に満ちた人間を育成するためのふるさと教育の推進では、「体験的学習の時間支援事業」として、小学生は見どころマップの作成、中学生は国指定名勝の案内を行い、郷土に対する愛着心を育てている。また、子どもが安心して学べるように学校生活支援

の充実として、一人の子どもを複数の目で育てるための、学校支援活動としての学校行事への支援や、安全の確保等を地域で実施するとともに学校生活支援員等の配置、大仙市PTA連合会との連携を図っている。さらに、教育相談体制の整備と相談活動の充実として、電話相談の設置、適応指導教室「フレッシュ広場」を開設している。

2、創造的に生きぬく力を育成

夢や志をもち、その実現のために意欲的に努力する児童生徒の育成をするため、「9年間を見通したキャリア教育指導計画」、「大仙ふるさと博士育成事業」等を通して学習の面白さを育成しています。また、「コロンブスの卵アキタ・デ・サイエンス事業」、外国語教育を充実するための、「大仙グローバルジュニア育成事業」や国際教養大学との交流活動、オールイングリッシュのTT指導等を行っています。さらに、生徒会活動の連携として、中学生サミットを実施している。

3、考え、生かす力の育成

学ぶ意欲を高める指導を充実するため、「一人の子どもを複数の目で育てる」ねらいに応じた指導形態の工夫（TT、少人数、小学校で一部教科担任制等）、児童生徒主体の探究型授業づくり、優れた指導力をもつ教諭が複数校を兼務する「教育専門監の配置」、「学力向上推進委員会」を通して、落ちこぼれのない学力向上を行っている。

4、開き、信頼される学校

各機関、団体、企業との協力による、地域の教育力を生かした体験活動、自分で学習計画を立てる「子どもと親と教師がつながる一人勉強ノート(学習習慣の確立)」は毎日継続し、教師がコメント、親も見守っている。

◎タブレット等のICTを活用した指導について

まだ、導入から成果につながっていない。

◎今後の課題について

毎月100人の人口が減少しており、「「ふるさと大好き」元気に探究する子ども」を育て続けることが必要である。

◎主な質疑

質 問	説明及び回答
コロンブスの卵 アキタ・デ・サイエンス事業の効果は出ていますか。	対象は、中学生です。特に理数系を志望する生徒が増加しているか調査はしていません。
「一人勉強ノート」について教えてください。	一人勉強ノートは、親世代も経験していることから根付いています。内容は、小学生低学年は、先生が、アドバイスを行いますが、「自分がやってみたい」が大切な「学び」なので、自由に自分で時間や内容などの学習計画を立てています。一人勉強にかけている時間は、およそ「学年×10+10分」でやっているようです。当然ほかに宿題もあります。ただし、先生は、自分が出した宿題を黒板等に掲示して、今、生徒に出されている全宿題量がわかる工夫をしています。

「大仙ふるさと博士育成」事業は、いつから開始していますか。また、参加割合を教えてください。	平成 28 年度から始めました。初級クラスは、80%の生徒が取得しています。
大仙PTA連合会で決めた「ノーメディアデー」は、守られていますか。また、PTAへの参加率はいかがですか。	PTA が決めたことなので、家庭が主体で行っていますが、素直に守られているとの報告を受けています。PTA への参加率は、ほぼ 100%です。
先生の働き方改革はどう進めていますか。	勤務時間管理は、PC の電源の ON・OFF で集計しています。また、時間超過状況ですが、「管理するもの」としての意識ができてきています。ベテランが多く(平均年齢 47.34 歳)これが教育に安定感をもたらしめている。しかし、20～30 歳は、20%以下で次の課題です。
中学校部活動の時間は、制約されていませんか。	部活動の時間は、校長先生と担当の先生とで話し合っけて決めています。週に 2 回はお休みしていますが、部活のレベルは、県内トップレベルです。
大仙市内の21小学校、11中学校、それぞれの学校のICT環境整備の進捗状況を教えてください。	まだ進んでいません。
大仙市の学力は、秋田県の平均より優秀ですが、教育委員会の関わりを教えてください。	指導主事5名で担当しています。各校を県の指導主事と一緒に又は、単独で必ず訪問して、方向性を確認し整えています。
「良い先生」は、どうやって集めていますか。	先生の基本姿勢は、「助ける・助けることができる」人。一人のスーパースターはいらない。組織力で戦えることが大切です。
不登校はありますか。	全国平均より少ないが、あります。「朝ごはん」をきちんと食べる」など基本的な生活パターンがしっかりしている家庭では、多くありません。
日本語指導支援者はどんな教育をしていますか。	対象生徒は、一人です(中国からの生徒)。
オールイングリッシュの TT 指導について教えてください。	英語教育を行うため、先生を大学に派遣して講習を行いました。しかし、教員の平均年齢 47.34 歳から難しい面もあり、国際教養大学と交流し一緒に授業を行うこともあります。 TT は、生徒と先生も割合によって決めています 例えば、生徒 30 人先生 2 名なら 15 人ずつです。
小学校の教科担任制とありますがどのように運用していますか。	はっきりと担当分けして行っているわけではありません。校内で自由に、空き時間と得意授業を割り振って行っています。

英語教育アドバイザー1名は少ないですか。	市立22校の小学校を1名で担当しています。
CIRとは、どんな役割がありますか。	ALTの補助活動をしています。 本来の役割は、国際交流員で、市の観光アドバイザーが役割です。
狙いに応じた指導形態の工夫で、学年を解体してのメリット、デメリットを教えてください。	メリットは子供の能力に合わせた指導が出来ることで、デメリットは学び合いになった時、異なった意見が出づらくなったことです。高め合うためには、工夫が必要であると思います。 最近、クラスを自分で選択するようになってきました。
平成30年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果から大仙市の子どもの課題は何ですか。	50m走、上体起こしは、全国的に低くなっています。このデータから授業間の「長休み時間」を利用して各校で体力づくりに工夫しています。

◎所感

- ・子どもと親と教師がつながる「一人勉強ノート」が最も印象に残った活動で、親の代からやっている根付いた勉強ということに学力向上の秘訣を見たように思いました。
- ・「共・創・孝・開」を柱とした、大仙教育メゾットを基に各学校の取組は素晴らしいと思いました。本市においてもノーメディアデー（チャレンジシート作成）、キャリア教育推進「総合的な学力育成」事業、学力向上推進委員会（力のある教員の指導案をデータフォルダに残し、いつでも見られるようにする）、一人勉強ノート（毎日継続、教師がコメント、親も見守る。）など反映できるものがあると感じました。
- ・自発的に学習するようにサポートをしており、自己肯定感を持つ児童が多いというのが印象的で、そのことが、意欲につながっていると感じました。県から派遣される教師と指導する教官に対して、教育長が指導ではなく助けてあげて欲しいと同じ目線で取り組む姿勢が、目標に向かっての一体感を生んでいると思いました。
- ・子どもたちが夢を持つためのサポートとして、地元企業や大学等との交流の場を多く持つことや、ボランティアや外国の方と会話をしたら、スタンプを押すなど、交流したことが、一目で分かるようにするなど本市でも反映できると思いました。